［附　編］

詩跡の調査行程記録と詩跡関連写真

本研究は、文献資料の分析に加えて、現地調査を重視した点に特色がある。現地調査も１人（日本文学研究者）を除く４人で行ったのは、共通の認識の下に討論を行おうと考えたためである。現地調査に当たっては、関連資料の収集と詩跡関連の写真撮影にも努めた。写真は刻々と変遷する詩跡の現状をありありと物語るため、その１部を掲載することにした。写真は研究分担者、許山秀樹准教授のものを用いた。【　】内の数字は、後掲の写真番号をあらわす。（以下、説明と補遺の文は植木久行執筆）

［平成17年度］

江蘇・安徽省

○調査期間…平成17年９月３日（土）～９月13日（火）

○日程…９月３日（土）成田空港→上海浦東空港→上海駅→江蘇省鎮江市

９月４日（日）金山寺（江天禅寺）・慈寿塔・芙蓉楼（王昌齢の詩にちなむ）・天下第一泉・［伝］郭璞墓【1,2,3,4】→西津渡（金陵渡）跡【5】→北固山・多景楼・甘露寺・鉄塔・狠（こん）石【6,7,8】→焦山・定慧寺（じょうえじ）［焦山寺］・瘞（えい）鶴銘［残欠］【9,10】→夢渓園（沈括故居遺址）→丁卯橋【11】→古京杭運河→読書台（伝『文選』編纂所）・増華閣・聴鸝山房→招隠寺→竹林寺→米芾墓→潤揚大橋（鎮江と揚州の間に架かる長江大橋）→瓜洲古渡【12,13】→文峰塔・古運河【14,15】→揚州市

９月５日（月）瘦西湖公園・二十四橋（１つの橋の名。本来の用法とは異なる）【16,17】→大明寺・平山堂・棲霊塔・第五泉・鑑真紀念堂【18,19】→揚州城遺址→鑑楼（迷楼跡と伝える）→揚州唐城遺址博物館→文昌閣→石塔寺跡→木蘭院跡→神居山漢墓→隋・煬帝陵【20】→竹西公園（竹西亭・月明橋、杜牧詩にちなむ）【21,22】→禅智寺（杜牧詩、後の上方寺）跡

９月６日（火）天寧寺（『全唐詩』編纂所）【23】→安徽省滁州市→酔翁亭（讓泉、三賢堂、欧陽脩）・琅琊山【24,25】→欧陽脩紀念館→西澗の跡（韋応物詩、城西水庫）【26】

９月７日（水）和県→覇王祠・覇王墓【27,28】→陋室（劉禹錫）→長江→馬鞍山市→李白紀念館（太白堂・太白楼［謫仙楼］・唐李公青蓮祠）【29,30】→采石磯風景名勝区・李白衣冠塚・燃犀亭・聯璧台・蛾眉亭・三台閣【31,32】

９月８日（木）当塗県→青山の李白墓園・太白祠【33,34】→青山謝公（朓）祠・

謝公井の跡（包子山）【35】→天門山（李白詩）【36】→宣城市（旧・宣州市）→宛渓（鳳凰橋）【37】→謝朓楼・懐謝亭【38】→開元（寺）塔【39】→済川橋（東門大橋、宛渓に架かる）→句渓→梅渓→梅尭臣祠跡

9月9日（金）敬亭山・太白独坐楼・玉真公主墓・皇姑泉【40,41】→広教寺双塔【42】→謝公亭跡【43】→響山【44】→柳払橋跡→青弋江【45】→南陵県→涇県

9月10日（土）水西（宝勝）寺の双塔（大観塔・小方塔）【46】→桃花潭・汪倫の墓・踏歌岸閣・懐仙閣【47,48,49,50】→文昌閣→中華第一祠→太白楼→九華山

9月11日（日）月身（宝）殿・化城寺（九華山歴史文物館）・金沙泉・太白井・太白書堂【51,52】→池州市（旧・貴池市）→斉山・翠微亭・華蓋洞【53,54】→清渓［河］（＝白羊河、李白「秋浦の歌」、江祖石、万羅山）【55,56】

9月12日（月）杏花村古井文化園・黄公井・杜牧像【57,58,59】→銅陵→上海

9月13日（火）→成田空港

［平成18年度］

山東・陝西省

○調査期間…平成18年9月4日（月）～9月14日（木）

○日程…9月4日（月）成田空港→山東省青島流亭国際空港→曲阜市→曲阜魯国故城

9月5日（火）兗州市泗水・金口壩（李白と杜甫の永別地）【1,2】→済寧市（任城）李白紀念館・太白楼（李白が飲んだ酒楼を記念する詩跡）【3】→鄒城市孟廟（孟子を祀る廟、亜聖殿）・孟府【4,5】→孟子故宅（孟子の出生地、曲阜市の南端の凫村）【6】→曲阜市→孔廟（孔子を祀る廟）［魯壁・杏壇・大成殿・聖跡殿］・孔府【7,8,9,10】→孔林［孔子墓・孔鯉墓・子貢廬墓処・洙水］【11,12,13,14】

9月6日（水）顔（回）廟［復聖廟］・周公（旦）廟【15,16,17】→曲阜魯国故城遺址【18】→孔子研究院→泰安市→岱廟（天貺殿）・遥参亭【19,20,21,22】→岱宗坊（泰山の山門）【23】→王母池→孔子登臨処・一天門（泰山の登山路）【24】→蒿里山

9月7日（木）泰山（玉皇廟・南天門・日観峰・唐摩崖碑・孔子廟）【25,26,27,28,29】→済南市趵突泉公園（李清照紀念堂、漱玉泉・柳絮泉・滄園［明・李樊龍ゆかりの地］）【30】→五龍潭【31】→大明湖・歴下亭・南豊（曾鞏）祠・辛稼軒（棄疾）紀念祠【32,33,34】→鵲山遠望（黄河公園）【35】

9月8日（金）千仏山（古称は歴山）公園・興国禅寺［舜祠・魯班祠］【36,37】→華不注山遠望→陝西省西安市→漢長安城遺址（未央宮前殿遺址）【38】→大雁塔【39】

9月9日（土）滻水【40】→長楽坡→華清宮（御湯〔九竜湯〕・海棠湯〔貴妃池〕、津陽門・望京門）【41,42】→秦始皇帝陵【43】→現在の灞橋・［隋］古灞橋遺址【44,45】→漢の覇（灞）陵［前漢文帝劉恒の陵墓］・白鹿原【46,47】→青龍寺・楽遊原【48,49】→興慶宮公園（勤政務本楼遺址、沈香亭、南薫閣）【50,51,52】

9月10日（日）興教寺（玄奘三蔵塔、基公塔、円測塔）【53,54】→杜曲鎮【55】→朱坡（杜佑・杜牧の別墅）【56】→華厳寺跡（杜順墓塔、澄観墓塔）【57】→牛頭寺→杜公［甫］祠（現在、牛頭寺の傍ら）【58】→皇子陂（大池の名。現在は消失。皇子坡とも書く）【59】→潏水【60】→香積寺（善導墓塔）【61,62】→滈水【63】→天壇（天を祀る）遺址［陝西師範大学内］【64】→ 大興善寺【65】

9月11日（月）斗門鎮の昆明池跡【66】→石婆廟（織女石像）【67】→灃河【68】→戸県の渼陂湖（杜甫・岑参の舟遊び）・空翠堂（杜甫の詩にちなむ）【69,70,71】→周至県の仙遊寺跡（白居易の「長恨歌」誕生の地。ダムの底に沈み、近くの高台に、隋唐期に建てられた八層の法王塔が移され、仙遊寺博物館が建てられた）【72,73】→黒河【74】→草堂寺→宗聖宮［観］（楼観、老子著書の地と伝える）【75】→圭峰・紫閣峰遠望【76,77】

9月12日（火）唐曲江池遺址【78】→秦二世皇帝陵（胡亥の墓）【79】→小雁塔（薦福寺）【80,81】→西安碑林【82 】→西安城牆（永寧門［南門］・朱雀門［永寧門の西］・安定門［西門］）【83,84,85】→西北大学→唐大明宮麟徳殿遺址【86】

9月13日（水）秦阿房宮前殿遺址【87】→漢の茂陵、茂陵博物館（霍去病墓）【88,89】→楊貴妃墓（馬嵬坡）【90,91】→唐の昭陵（九嵕山）、昭陵博物館【92】

9月14日（木）大雁塔（大慈恩寺）【93】→唐大明宮遺址（含元殿復元）【94】→秦咸陽宮遺址（窑店）→咸陽橋・渭水→西安咸陽国際空港→成田空港

○　次に収める補遺１・２のうち、１は江南の詩跡調査に関する短文。また後者は本報告書に収める「中国詩跡考―安徽省―」の冒頭に載せる文とともに、実地調査を行った感想を書きとめたもの。すでに我々のウェブサイト「中国詩跡」に載せてあるが、参考としてここに収めた。

［補　遺］１

詩跡の宝庫・宣城

平成17年の９月初旬、中国古典詩の詩跡（歴代の詩人たちが詠み重ね、刻みつけてきた詩心の伝統を宿す土地）調査のために、長江下流の江南地方、鎮江・揚州・馬鞍山・宣城・池州等の地を探訪してきた。なかでも清の著名な文章家・姚鼐（ようだい）が、「宣城は古え是れ詩人の地」と歌ったように、安徽省宣城（旧名・宣州）市付近は、いわば詩跡の宝庫と言ってよい。

宣城は、江南の奥地にあったが、すでに六朝期、江南の重鎮となり、隋唐期、内城・外郭を持つ都市として繁栄した。城（まち）の西北には、江南の詩山・敬亭山が連なり、東側には宛溪（えんけい）・句溪（こうけい）の両水が流れ、鳳凰・済川の双橋が、美しい影を水面に落としていた。李白は、風光の美を、「秋に宣城の謝朓北楼に登る」詩のなかで、「江城（江べの城・宣城）は画裏（絵の中）の如し」と賛美し、続いて「両水（城を）夾みて明鏡のごとく、双橋（影を）落として彩虹（五色の虹）のごとし」と歌った。しかし今日、宛溪はすでに明鏡の輝きを失い、句溪は部分的に残存するのみであったが、宛溪の同じ場所に架かる鳳凰橋と済川橋（東門大橋）の上を散策できたのは、望外の幸せであった。

南朝・斉の詩人謝朓は、建武２年（495）、宣城郡太守となり、ここで多くの清麗な詩を作った。晩唐の杜牧が、「南朝　謝朓の城」と歌うのは、宣城の地に対する、彼の文学上の功績を思いやってのことである。

深く謝朓を敬愛し、「一生　首（こうべ）を低る　謝宣城」と評された李白は、晩年、何度も宣城を訪れて、風土に刻まれた謝朓の詩心を追い求めた。「独り敬亭山に坐す」詩にいう、「衆鳥　高く飛んで尽き、孤雲　独り去って閑なり。相看て　両（とも）に厭わざるは、只だ敬亭山有るのみ」と。

山は宣城の西北約５キロに位置し、謝朓は在任中しばしば遊び、「茲（こ）の山は百里に亘り、合沓（ごうとう）として（重なり合うさま）雲と斉し」（「敬亭山に遊ぶ」詩）と歌った。李詩は、敬亭山との真率な心の交流を歌うが、おそらく李白は、謝朓の面影を山容に重ねて追慕したのであろう。謝・李の２詩によって、平凡な小山・敬亭山は、約300人の詩情に点火して、1400篇の詩文を生む、宣城第一の詩跡となった。

李詩を通して有名になった、謝朓ゆかりの詩跡に、謝朓楼と謝公亭がある。謝朓楼は、謝朓が郡守の時に住んだ「高斎」の跡地に造られ、城内の最高所（陵陽山第一峰）にあり、北楼・畳嶂楼とも呼ばれた。宣城の美を印象づける前掲の李詩は、この高楼での作。鋭い時間意識による高揚した心情を歌う、「我を棄てて去る者は　昨日の日　留むべから

ず、我が心を乱す者は　今日の日　煩憂多し」で始まる詩「宣州の謝朓楼にて校書叔雲に餞別す」も、また名唱である。かくして李白の遺風を慕う人々を惹きつけ、130篇の詩文を生む。現在の謝朓楼は、1998年の再建である。

また謝公亭は、謝朓が友人・范雲を見送った処と伝える。李白は、この伝承を踏まえて、「謝亭は　離別の処、風景　毎(つね)に愁いを生ず」（「謝公亭」詩）云々と歌い、続いて晩唐の許渾が「謝亭送別」詩を作り、宣城の離別の詩跡となる。謝公亭はすでに失われたが、その跡地は、今もなお舟の渡し場となり、江南の風情に満ちている。

杜牧は観察使の幕僚として、生涯に２度滞在した。城内の陵陽山第三峰（謝朓楼の北、宛渓の西）にあった古刹・開元寺をこよなく愛し、しばしば詩に詠む。その一首、「宣州開元寺の水閣に題す」詩の一節にいう、「鳥去り鳥来(きた)る　山色の裏(うち)、人歌い人哭す　水声の中。深秋　簾幕　千家の雨、落日　楼台　一笛の風」（鳥たちは、昔からこの山の緑の中を、自由に往来して生を楽しみ、人々は、渓流の水音の中で、喜びに歌い、悲しみに哭いて暮らしてきた。深まりゆく秋、簾を下ろした無数の家々に降る、冷たい雨。沈みゆく夕陽の中、遠くの楼台から、笛のひと節を伝える、微かな風）。

移ろいゆく人生の悲しみと響きあう、孤高の詩心が流露する。現在、寺跡の一角に、北宋期の姿を留める開元塔〈景徳寺多宝塔〉のみが残る。

宣城は謝朓・李白・杜牧等の詩魂を宿す詩跡として、急速に変貌する現実の背後に、今もなお美しい文学的幻想を奏でている。

［補　遺］２

前　言　２

科研費「詩跡（歌枕）研究による中国文学史論再構築―詩跡の概念・機能・形成に関する研究―」にもとづく、平成18年度の詩跡の実地調査と資料・情報の収集は、９月４日（月）から９月14日（木）にわたって行われた。この調査に参加した者は、前回と同じである。今回の主要な探訪地は、山東省済寧市→鄒城市→曲阜市→泰安市→済南市→陝西省西安市である。詩跡の宝庫である西安には６泊して、周辺に点在する詩跡を探訪した。

山東省での調査は、兗州(えんしゅう)市の東郊を南流する泗水(しすい)に架かる石造の水門（石堤）の跡、金口壩(きんこうは)（別名は金口堰(きんこうえん)、通行用の橋、水量調節のための水門を兼ねる）で始まった。ここは近年、李白と杜甫が永別したところ、李白の「魯郡（兗州）の東の石門にて杜二甫を送る」詩に見える「石門」とされる場所である。我々の訪れた９月５日は、旧暦（農暦）では閏７月13日であり（３日後は白露節）、李詩の「秋波　泗水に落つ」る光景を見ることができたのは幸いであった。済寧市（任城）の太白楼は、李白が飲んだ酒楼を記念する詩跡であるが、すでに森閑としてさびれた気配を漂わせていた。鄒城市の孟廟（孟子を祀る廟）は、曲阜の孔廟（孔子を祀る廟）とは全く異なって、静謐で厳かな雰囲気に包まれた聖域であり、孟子の故居（孟子の出生地、曲阜市の南端の峪村）まで探訪できたのは、望外の幸

運であった。この後、曲阜に帰り、孔廟・孔林（孔子とその子孫の墓地）等を参観した。

青島から曲阜に向かう途中、ごつごつとした岩肌を露出させた山の多いことに驚いた。昨年、南の江蘇・安徽両省で見た山の風貌とは大きく異なり、西安市の南に横たわる終南山とも異なっている。こうしたなか、古来、五岳の筆頭に位置し、山東を代表する詩跡の１つ、泰山の雄姿を眺め、その山頂に登って、始めて「泰山は巌巌として、魯邦の詹る所」（岩のそそり立つ泰山は、魯の国びとの仰ぎ見るところ。『詩経』魯頌「閟宮」）の句意を実感できた。そそりたつ険しい花崗岩の岩山「泰山」は、山東の山の特徴的な風貌をあらわしていたのである。

古来、「泉城」と呼ばれる済南市は、大明湖、歴下亭、趵突泉、華不注山、鵲山など、詩跡に富んでいる。しかし山を除けば、大きく変貌してきた。大明湖も歴下亭も、本来の位置ではなく、趵突泉も一時枯渇したが、ふたたび噴泉を取り戻している。たとえ本来の位置でなく、規模自体も縮小したとはいえ、歴代読み継がれてきた詩跡として、大明湖、歴下亭、趵突泉という古典詩語は、今もなお美しいイメージを喚起し続けている。趵突泉の再生も、文化・観光の両面で不可欠の存在として深い努力が傾注された結果であろう。七十二泉の１つ、五龍潭の碧玉の水色は、忘れがたい美しさであった。

十王朝の古都西安とその周辺は、詩跡の宝庫である。盛唐の自然詩人、王維の輞川荘探訪は長年の夢で、訪問の許可を申請したが、軍事施設等の関係で認められなかったのは、きわめて残念である。今回の詩跡調査は、漢代の都長安の未央宮探訪から始まり、秦の始皇帝陵や華清宮などを参観、その帰途、唐代の著名な離別の地、消魂橋とも呼ばれた灞橋の遺址を訪れることができた。

輞川荘探訪が不可能になった今回、西安市南郊、南北斜め方向に約15キロ続く河谷盆地、樊川が、とくに魅惑的な詩跡であった。北の韋曲から南の杜曲に至る樊川には、韓愈・権徳輿・鄭虔・杜佑・裴度・牛僧孺らの別荘（郊居・園池）があり、詩人たちの保養・交遊の場となっていたからである。なかでも杜佑の城南別墅は著名であり、孫の杜牧は子どものとき、しばしば遊び、晩年には修築して時おり訪れた。ここは現在、朱坡村と呼ばれている。唐初、華厳宗の初祖杜順の墓所として建立された華厳寺のそばである。急峻な坂道をてくてくと上っていくと、左手に７層の杜順の墓塔が建つ華厳寺跡へと通じる道が延びている。それをひとまず無視して右手方向に斜めに伸びゆく坂道を、息を切らせながら登り切ったところが、ひっそりと静かな朱坡村であった。その前方（南方）には、秀麗な終南山の山並みと美しい田園が広がっていた。盛唐の岑参の詩に歌われた「寺（華厳寺）の南　幾十峰、峰翠にして　晴れて掬う可し」という情景を、まさに実感できたのである。今日残存する樊川の名刹、華厳寺、玄奘の墓塔のある興教寺、牛頭寺も、見晴らしの好い高台（原上）にあり、更には韓愈らの別荘のほとりにあった皇子陂（大きな池の名。現在は消失。今日、皇子坡と書かれる）も、やや高い台地にあった。この実地調

査によって平面的な地図では理解できない土地の高低感覚や眺望、空気など、当地独特の風貌を体感できたのは、大きな収穫であった。

西安市の西郊では、まず斗門鎮の昆明池跡を訪ねた。漢代、昆明池を掘ったとき、その両岸に置かれた牛郎・織女の彫像のうち、運良く後者を祀る石婆廟（織女寺）を訪ねて織女の彫像を見ることができた。この後、戸県の渼陂（湖）を訪ねた。杜甫が岑参兄弟に誘われて舟遊びをし、「渼陂の行」を作ったところである。杜甫の詩にちなんで建てられた空翠堂が、池中の島にある。現在の渼陂湖は、昔に比べて縮小したものであるが、水は澄み、終南山の山並みも見える景勝地であった。

周至（昔の盩厔）県の黒水（黒河）上流付近にあった仙遊寺は、白居易の名作「長恨歌」が誕生したところであり、盩厔県尉在任中の楽しい思い出を歌った白居易の名句「林間に酒を暖めて紅葉を焼き、石上に詩を題して緑苔を掃う」で知られた詩跡である。そこには、隋唐期に建てられた八層の法王塔が現存して仙遊寺の在りかを伝えていたが、西安市の水不足解消を主目的にダムが建造されて湖底に沈むため、近くの高台に移されることになった。現在、古塔はそのまま移されて、仙遊寺博物館も造られたが、ここ２、３年資金不足で再建が遅れているらしく、博物館内には見るべきものもなく、寺自体もまだなく、古塔のみがそびえ立つという状況であった。

西安市内の大雁塔、小雁塔、大興善寺、青龍寺なども訪れたが、大雁塔のある大慈恩寺付近は、近年の観光産業の目玉にするべく整備され、広場には玄奘の像も建てられ、慈恩寺を詠んだ詩句を書いた燈籠が並んでいた。夜になると、大雁塔はライトアップされ、広場の照明は地面からなされて、夜遅くまでにぎやかであった。曲江池の再開発も計画されているが、曲江池南岸の秦二世皇帝陵（胡亥の墓）を保存する建物は、かなり荒廃していた。人気のあるスポットに投資する一方、なかなか手の回らない場所が生じているのである。

西北郊外では、前漢の武帝の茂陵、唐の太宗の昭陵、唐の楊貴妃墓などを参観したが、「山を以て陵と為」した昭陵の規模の大きさには驚嘆した。葬られている九嵕山（海抜1188メートル）の麓、１つの陪葬墓のそばに昭陵博物館が建てられているが、そこから山頂近く、「唐太宗昭陵碑」の建つ場所に至る道は、天上の村々かと思われる間を縫って上っていく。その高所から眺めても、陪葬墓などはあまり見えない、「唐十八陵」の中で最も巨大な陵園であった。

このほか、天を祀る天壇の跡、大明宮の正殿含元殿や麟徳殿の遺址、阿房宮の版築も参考になった。ちなみに、含元殿は、現在全面的な復元工事に着手し、我々が訪れたときは、足場を組んでいる最中であった。ただ西安の環境は必ずしも良好ではなく、空気はかなり汚れている。このため、大雁塔や小雁塔の最上階に上っても遠望できない惨状であった。

○江蘇・安徽省詩跡関連写真

1　金山寺（江天禅寺）

2　慈寿塔

3　芙蓉楼

4　天下第一泉

5　西津渡（金陵渡）跡付近

6　北固山から長江を俯瞰

7　多景楼

8　甘露寺

9　焦山

10　定慧寺

11　丁卯橋

12　瓜洲古渡

13　瓜洲古渡

14　古運河の碑

15　古運河

16　瘦西湖

17　二十四橋

18　大明寺

19　棲霊塔

20　隋煬帝陵

21　竹西亭

22　月明橋

23　天寧寺

24　酔翁亭

25　讓泉

26　西澗の跡

27　覇王（項羽）祠

28　覇王墓

29　李白紀念館

30　謫仙楼

31　采石磯

32　李白衣冠塚

33　青山の李白墓園

34　李白の墓

35　青山謝公祠・謝公井跡

36　天門山

37　宛溪（鳳凰橋から見る）

38　謝朓楼

39　開元塔（謝朓楼から望む）

40　古昭亭（敬亭山の中）

41　太白独坐楼

42　広教寺双塔

43　謝公亭跡（三叉河付近）

44　響山

45　青弋江

46　水西寺の大観塔

47　桃花潭景区遊覧示意（案内）図

48　桃花潭

49　懐仙閣

50　汪倫の墓

51　化城寺（九華山歴史文物館）

52　太白井

53　斉山

54　岳飛像（斉山の中）

55　雨の清渓［河］

56　江祖石

57　杏花村古井文化園

58　黄公井

59　杜牧像

○山東・陝西省詩跡関連写真

1　泗水

2　金口壩

3　太白楼（済寧市李白紀念館）

4　孟廟

5　亜聖殿（孟廟の中）

6　孟子故宅へと通じる

7　曲阜の孔廟へと通じる

8　杏壇

9　大成殿

10　魯壁

11　孔子墓

12　孔鯉墓

13　洙水橋

14　洙水

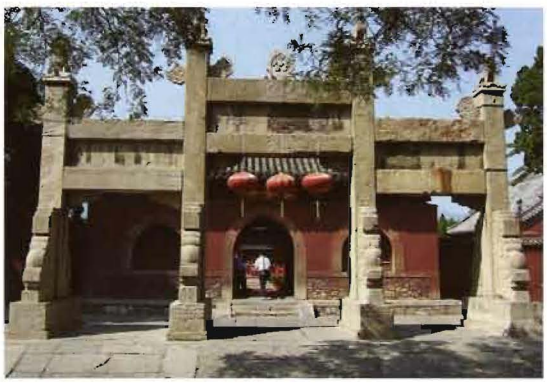
15　陋巷井（顔廟の中）

16　周公廟

17　周公廟の中

18　曲阜魯国故城遺址

19　岱廟



20　遥参亭

21　唐槐（岱廟の中）

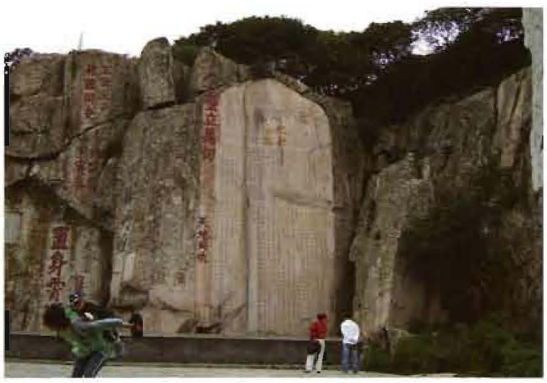
22　（宋）天貺殿

23　岱宗坊

24　孔子登臨処

25　十八盤（泰山の難所）

26　南天門



27　紀泰山銘（玄宗撰文・書）

28　日観峰からの眺望

29　古登封台（玉皇廟の西）

30　趵突泉

31　五龍潭

32　大明湖への入口

33　歴下亭

34　南豊祠

35　済南市を通る黄河越しに鵲山を望む

36　唐槐亭（千仏山の中）

37　興国禅寺

38　漢未央宮前殿遺址

39　大雁塔

40　滝水

41　華清宮

42　海棠湯（貴妃池）

43　秦始皇帝陵より俯瞰

44　現在の灞橋

45　［隋］古灞橋遺址

46　漢の霸陵

47　白鹿原

48　青龍寺

49　青龍寺の中

50　勤政務本楼遺址

51　南薫閣

52　沈香亭

53　興教寺

54　玄奘三蔵塔

55　杜曲鎮

56　朱坡（村）

57　華厳寺の杜順墓塔・澄観墓塔を望む

58　杜公祠

59　皇子陂跡

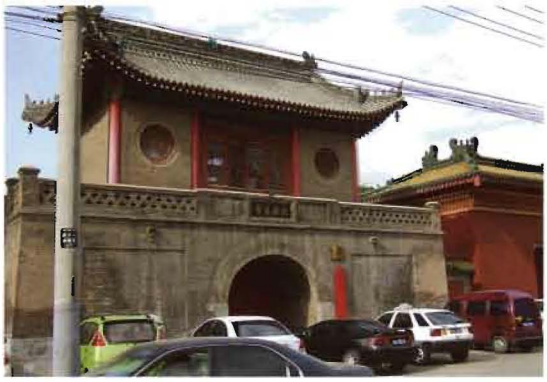
60　潏水

61　香積寺

62　善導墓塔（香積寺の中）

63　滈水

64　天壇遺址



65　大興善寺

66　昆明池跡

67　（昆明池のほとりに置かれた）織女石像

68　澧水

69　渼陂

70　空翠堂

71　終南山

72　仙遊寺博物館

73　法王塔

74　黒河

75　宗聖宮

76　圭峰

77　紫閣峰

78　唐曲江池遺址

79　秦二世皇帝陵

80　薦福寺

81　小雁塔（本殿の上に見える）

82　唐興慶宮図（石刻、西安碑林）

83　永寧門上から眺望

84　朱雀門

85　安定門

86　麟徳殿遺址

87　秦阿房宮前殿遺址（版築）

88　霍去病墓

89　茂陵

90　楊貴妃墓への入口

91　楊貴妃墓

92　昭陵を望む

93　玄奘像と大雁塔

94　含元殿復元